

# 小学校国語

A問題での平均正答率は59.1%であり、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的事項の定着に不十分なものがある。  
B問題での平均正答率は46.6%であり、複数の内容を関連付けた上で、自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

## 分類・区分集計結果

※平均正答率及び平均無解答率については、P.1の表を参照のこと。

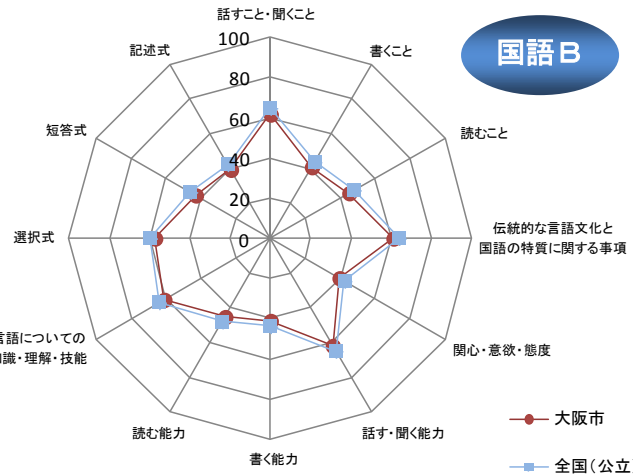
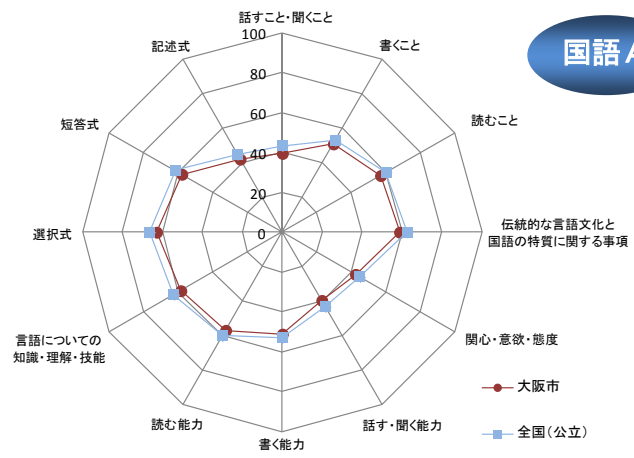
分類	区分	A問題（全18問）			B問題（全10問）		
		対象 設問数 H25	平均正答率(%)		対象 設問数 H25	平均正答率(%)	
			H25 大阪市	H25 全国		H25 大阪市	H25 全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	39.5	43.2	3	61.7	64.8
	書くこと	4	51.1	53.0	4	41.0	43.8
	読むこと	3	56.8	60.1	4	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	58.7	62.6	1	61.0	63.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	42.3	44.9	2	39.5	42.5
	話す・聞く能力	1	39.5	43.2	3	61.7	64.8
	書く能力	4	51.1	53.0	4	41.0	43.8
	読む能力	3	56.8	60.1	4	45.1	47.9
	言語についての知識・理解・技能	15	58.7	62.6	1	61.0	63.8
問題形式	選択式	7	63.0	66.3	3	57.4	59.7
	短答式	10	58.1	61.9	5	42.9	45.9
	記述式	1	42.3	44.9	2	39.5	42.5

## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

■ A問題では、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「関心・意欲・態度」「記述式」の項目で低い値を示している。

■ B問題では、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「知識・理解・技能」の項目で高い値を示している。

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。



## 具体的な成果と課題

- 【国語A】 ◇漢字の読みについては、相当数の児童ができています。  
◆「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」「スピーチの表現を工夫すること」等に課題がある。
- 【国語B】 ◆「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関係付けたりしながら、自分の考えを書くこと」「2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること」等に課題がある。

# 小学校算数

A問題での平均正答率は75.9%であり、場面の状況や操作の意味に基づいて、式的確に読むことについて課題がある。  
B問題での平均正答率は56.4%であり、図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選択することに課題がある。

## 分類・区分集計結果

※平均正答率及び平均無解答率については、P.1の表を参照のこと。

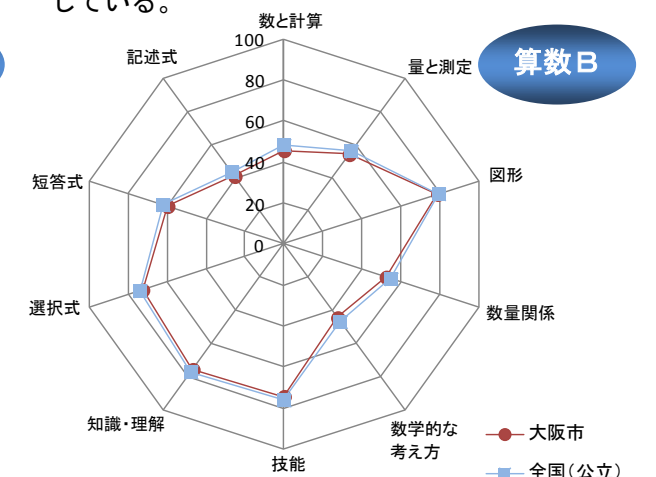
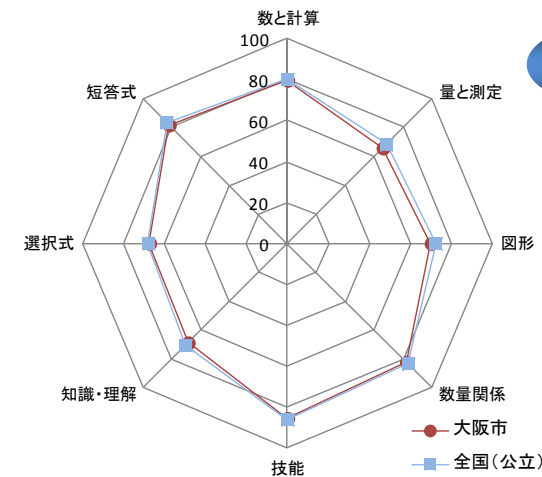
分類	区分	A問題（全19問）			B問題（全13問）		
		対象 設問数 H25	平均正答率(%)		対象 設問数 H25	平均正答率(%)	
			H25 大阪市	H25 全国		H25 大阪市	H25 全国
学習指導要領の領域	数と計算	8	79.8	80.2	3	45.7	48.3
	量と測定	4	66.0	68.3	7	54.1	56.0
	図形	3	70.2	72.5	3	78.8	79.3
	数量関係	4	82.2	83.4	7	52.4	54.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な考え方	0	—	—	8	44.5	46.8
	数量や図形についての技能	8	85.6	86.2	1	74.4	76.1
	数量や図形についての知識・理解	11	68.8	70.5	4	75.7	77.2
問題形式	選択式	8	67.5	68.2	4	72.6	73.8
	短答式	11	81.9	83.6	4	59.7	61.9
	記述式	0	—	—	5	40.9	43.2

## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

■ A問題では、「数量関係」「数と計算」「短答式」の項目で高い値を示している。

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

■ B問題では、「図形」「技能」「知識・理解」「記述式」の項目で高い値を示している一方、「記述式」と「数学的な考え方」の項目で低い値を示している。



## 具体的な成果と課題

- 【算数A】 ◇「測定の目的に応じて、計器を選択すること」については、相当数の児童ができています。  
◆「1㎡あたりの人数など単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解すること」「円柱の側面の辺の長さを求めるために、必要な情報を見取図から読み取ること」等に課題がある。
- 【算数B】 ◇「ものの位置の表し方を理解し、特定すること」については、相当数の児童ができています。  
◆「図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選択すること」「二つの数量の関係が比例の関係でないことを記述すること」等に課題がある。